

## 運動会への道のり

子どもたちと暮らしていると、本当に、本当に、教えてもらうことがたくさんあります。10月8日(火曜日)この日も子ども運動会が行われました。その日の午後、年長児が子ども運動会に来れなかった園長先生宛に描いた絵をナビゲーターに、今日の運動会までのエピソードをお話いたします。

### ◆『たこ焼きマントマン』はこうして生まれた!!

えんちゅうせんせいへ  
たこ焼きマンがとんちいるところか  
かっこいいですよ。



夏休み明け、年中組から始まった「夏祭りごっこ」は年長組を巻き込みグレードアップ!1階の絵本のコーナーはたちまち夜店の露店コーナーとなりました。たこ焼き・焼きそば・あんず飴・わたあめ・かき氷・くじ引きなど様々なお店屋さんは連日大盛況。年長・年中の売り手がお部屋に戻ると、すかさず、うめ・もみじ組も売り手をまねて大忙し!年中・年長さんは「うめ組ともみじ組は、まだ小さいから、ぐちゃぐちゃにしちゃうんだよね・・・」と困り顔を見せながらも根気よく店を整え遊びは展開!9月のおじいちゃんおばあちゃんの日パーティーでも、おじいちゃんおばあちゃんに夜店ごっこをしてもらい、

夏祭りを満喫しました。

こうして、7月の夏祭りから、およそ2ヶ月あまり、こよなく「お祭り」をみんなでたのしむ体験をしました。9月中旬、開催された運動会のテーマを決める「子ども会議」では、やはり「お祭り」に決定!

夜店をこよなく荒らした!!(あそんだ?!)年少・最年少組は露店から飛び出した「たこ焼きマントマン」に扮して、クラスで遊び始めました。みんなが体験した「たこ焼き」はすぐにうめ組のみんながイメージを共有し、楽しめる存在となりました。ビニールのマントは子ども達のお気に入り、登園すると朝から一日中マントをつけ、中には、大切におうちに持ち帰り遊んでいる子もいます!こうして生まれたたこ焼きマントマン、今日はどんなドラマが子ども達によって生まれるでしょうか・・・。

◆『おかえるさま』ってなんぞや!??! 9月のある日、きく組の靴箱に一匹のガマガエルが侵入!もちろん部類の虫好きクラスきく組側、ケースにいれて飼育開始!そうはいつても3日に一度はコオロギ10匹を食す大食漢!!ダンゴムシ牧場からダンゴムシを食べさせたり、バッタを捕獲したりと、それなりにお忙しいきく組さん。あげく、夜9時過ぎに担任から副園長の携帯に電話がなり、慌てて出てみると「きょう、カエルが元気なかったんですけど、幼稚園にカエルの様子見にいらしてもらえます〜」思



えんちゅうせんせいへ  
きく組のおかえるさまの  
ケムカいごいいます。  
おみこしをかっついでいる  
ところからこよいたす。

いせい

わず、副園長もこれには『じえじえじえじえじえじえじえ〜』大笑い！そんなに大事にしてもらっているカエルさんから、なんと！お手紙が届きました。内容は深刻なもの！！「ひょうたん沼の仲間とお祭りをするのだが、お神輿のご神体おカエル様がだれかに盗まれ、それをさがしにきた、きく組に探してもらいたい」というかなり緊急かつ、深刻な内容にきく組魂に火が付き、それまで日々、忍者の修行をつんできたきく組諸君による迷惑な？！「おカエル様探し」が幼稚園中で行われることとなりました。奇しくも、タイミングよく！（タイミングを見計らって）佑美先生が読んでくれていた『10ぴきカエルの秋祭り』の内容とぴったり！！

きく組さんのイメージは、すっかり『おカエル様』に染まったのです。

友だちの中で自己主張が強くなる4歳児……。勝ちたい気持ちが強くなったり、負けて悔しくて涙を流したり……。勝ったり負けたりの世界をファンタジーの中で何度もやわらかく繰り返していけることはとても大切なことだと思います。

今日の、「おかえる様を取り戻せ」のゲームは、紅白の勝敗もありますが、きく組全員の宿敵「大泥棒ごえもん」との勝負、そしてカエルたちとの約束「お神輿をとどける」という大切な使命が残されています。

どんなドラマが生まれるかどうぞお楽しみに……。

## ◆年長組の運動会……それは3年前に始まっていた……

えんちやうせんせいへ

おせまのぼるところが、すじくたのしかったよ！  
ごるするのが、すじくうれしいから  
うんどうかいでもがんばるね。



### 「憧れ」をもって育つ子どもたち

年長組名物「キャンプレース」なんといっても見どころは高さ160センチの三角山……。キャンプレースの障害物で毎年、子ども達から出てくるのはこの三角山……。加齢のせいか、「あんな高い山、子どもに危ない！」という周囲の声に説明する少々元気のない恭子先生……ある日子どもに言ってみました。「三角山じゃないものでわんぱく山をするとか、キャンプでもほかに色々やったから違うものにしたら……」子どもから返ってきた言葉は、意外な物だった……。

「無理無理！！だって、わたし、三角山はうめぐみの時から練習してるんだよ！！そんな簡単にあきらめられるわけじゃないじゃん！！」ぎゃふん～ 取り扱ってもらえない。子ども達は3年前から憧れていたのです……。子ども達の迷いのない意思に「そうだよ～ 先生たちもがんばるか～」とまたも教えられるのです……。

### 「自分の出来ないこと・できることを知る」子どもたち

「組体操は絶対絶対やりたい！！」「おれね……走るの遅いんだ～。三角山のぼるの出来ないんだよね～」「大きくなったね！自分で何ができないかわかるってすごいことだよ！わからないことがわかったら練習すればいいんだもん」と温子先生と子どもとのやり取り。その日から、まつ組は「恭子式、足くねくね体操」がお家での宿題になりました。自分の出来ないことを客観的にわかり、課題を持って取り組む……。大人にもなかなかできないことです。



えんちやうせんせいへ  
「キャンプレースのおせまを  
かえはら2のぼると  
1と2のぼるとりたいてる。  
みていてください。」

努力してできるようになったことは、なかなか忘れません。簡単に覚えたことは簡単に忘れます……。

出来なかったことから学ぶことはもっと、もっと優有意義です……。

組体操は、そうした一人ひとりの頑張りの集まりです。組体操の中に子どもがいるのではなく、一人一人が役

割を果たし、組体操ができています。組体操の大技やキャンプレース、リレーができるのは、こんな地味な日々の頑張りの姿なのです・・・



えんちようせんせいへ  
キャンプレースの  
おげましの作る  
ところをみせてください。



### 「運動会でそだつもの」子どもたち

「リレーはグループで走るのが面白いです。

みんなで作戦をたてました」リレーで園長先生に伝えたかったことは「早くはしること」よりも「みんなではしること＝協力する楽しさ」「作戦を立てること＝一人一人の良さをいかして最善の力を出す楽



えんちようせんせいへ  
リレーはグループではしるのが  
おもいようです。  
みんなで、ごくせんをたて  
ました。



なむか

しさ」を見出したことを子ども達は「楽しさ」の質ととらえました。

ほんとうに ほんとうに すごいな～  
走るのが得意な子もいます。走るのは遅いけどみんなの気持ちを楽しくしてくれる子もいます。知恵を出すことが得意な子。少し走るのは苦手だけど責任感があるという理由でアンカーになる子もいます・・・。一人一人の持ち味、パーソナリティーを生かし助け合うことを楽しめる素敵な子ども達です。

### 友だちや自分の姿に感動できる子ども達

「すごいよね！みんな頑張ってるよ～。ふうせん（バルーン）も上手になったよね～」「三角山〇〇ちゃん登れるようになったんだよ！先生早く見に来て！！」と友達の頑張りを自分の事のように喜べる子ども達が増えました。自分自身の体験から頑張りを認めていける仲間が増えることはクラスの絆を深めています。

そして、きちんと「SOS 助けて！」が言える子ども達に・・・自分が頑張ってもできないことがあります。一人ではいかんせんともしがたいこともあります。そんなとき、自分の言葉で「SOS」を友達や周囲の大人に伝えられることがとても大切です。三角山では子ども達が「1回で登れなかったら、戻って上るのはありね！」「ぼく、少しは自分で頑張りたいんだけど！」「じゃあ、3回で登れなかったら、おしりを押してもいいことにしよう」そんなルールがうまれます。『小善は大悪に似たり、大善は非情に似たり。』子ども達の育つ姿には大人が学ぶべきことが山ほどあります。

子の運動会で子ども達の育ったもの・・・

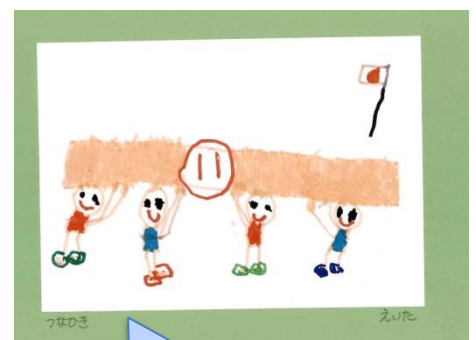
- ①何かを行うには、たくさんの時間とたくさんの仲間が必要なこと
- ②友達のアイデアや工夫、刺激を受けることの大切さ
- ③ルールを創りだし、守って遊ぶことで生まれる発見と発展
- ④『頑張ってる』ちっとも青臭くない！美しいことなんだということ
- ⑤できること、できないことがある・・・でもできるようにになりたいと願ひあきらめないこと

⑥「すごいな～」「かっこいいな～」大人や友達への憧れ

⑦やっぱり、友達はいいなあ～という実感

などなど この 運動会までのみちのりで子ども達大きく成長しています。

そして、私たち保育者も子ども達からたくさんの事を学んでいます。



つゆのき

えいた

「どうしてこんなに綱が太いの？」  
「だって、おとうさんたちのはずご～くふとくてながかったよ。かっこよかったもん！！」